

京都市右京区基本計画（案）

令和3（2021）～令和7（2025）年

令和3（2021）年3月



右京区役所

目次

区長メッセージ	計画策定に当たって	1
プロローグ	わたしたちの「まち」と「暮らし」との関わり	2
本冊子の読み方（構成）		4
=====		
第1部	「わたしたち」が実現したい未来のための「右京区基本計画」	5
	－右京区が目指す将来ビジョン－	
	－「わたし」が、まちや暮らしのことを考え行動するための基本計画－	
第2部	「わたしたち」が描く未来と実現のためのアクション	13
	－まずわたしたちができること－	
	－アクションを広げるために－	
第1章	まちを「知る」ことから始める	17
	（1）身近な暮らしを振り返る	
	（2）暮らしの変化をデータで見る	
	（3）今起きている大きな潮流の変化に目を向ける	
	（4）生活・暮らし目線で整理する	
	－【コラム】知ってる？右京区のこと－（右京区のまちの特徴、地図、人口等のデータ）	
第2章	わたしたちのまちや暮らしの未来を描く	28
第3章	未来の実現に向けたアクションを起こす	34
第3部	「わたし」と「わたしたち」をつなぎ・支える、右京区役所や市役所のアクション	39
=====		
編集後記		42

検討中

プロローグ わたしたちの「まち」と「暮らし」との関わり

【「まちを変える」ってどういうこと？】

わたしたちが生まれ育ち、くらす「まち」。

昔と今では、その様子はずいぶん変わってきたのではないのでしょうか。

なぜ、変わってきたのでしょうか？

それは、わたしたちの「暮らし」が変わったから。さらにそれは、「幸せなくらしをしたい」という、一人ひとりの想いや願いがあったから。つまり、「まち」は勝手に変わったのではなく、わたしたちが変えてきたのです。

「まちを変える」だなんて、何だか遠い話のよう…って思うかもしれません。しかし、「まち」が将来にわたって、幸せにくらせる「まち」であるためには、一人ひとりが「こうありたい」と想い願い続けることが、大切な第一歩ではないのでしょうか。

【まちを良くする行動・活動と「お互いさま」】

例えば、身近な「ごみ」の問題。

ごみを減らすために、行政では、ごみ袋有料化や分別義務化の条例をつくったり、市民や事業者にごみ減量を訴えたりしています。その訴えに応じて、お店では、マイバッグやマイボトル持参をお客さんに呼びかけたりしています。わたしたち一人ひとりは、お気に入りのマイバッグやマイボトルを持って、お買い物を楽しんでいます。

呼びかける人たちがいて、応じる人たちがいる。この両方があってごみを減らすことにつながっています。

また、ある場面では呼びかけ役を担っている人でも、別のときには助けてもらう立場になることもありますね。

例えば、「みんなでごみを減らそう！」と呼びかける活動をされている人も、子育てで誰かに助けてもらったり、ケガや病気で誰かに頼る場面があるかもしれません。

まちを良くすること。ともすれば、何かを呼びかけたり率先して実行している人たちだけがやっている、やってくれていると考えがちですが、実はわたしたち一人ひとりの行動がすべてつながっています。そして、人の行動はどこかでつながっていて、巡り巡って、その先にある一人ひとりの幸せな暮らしの実現につながっています。

まちは「お互いさま」で満ちています。

【幸せな暮らしを思い描くこと、行動すること】

大切なのは、わたしにとっての幸せな暮らしを思い描くこと。

そして、わたしの周りの人や、その周りの人、そのまた周りの人の幸せな暮らしを思い願うこと。わたしたちは一人でくらしているわけじゃないので、これも大切なんじゃないかと思います。

わたしの幸せのために、わたしの行動をちょっと変えてみよう。

そうすれば他の人たちの幸せにもつながるかも。

他の人たちの幸せを願い、わたしの行動をちょっと変えてみよう。

そうすればわたしの幸せにもつながるかも。

わたしたち一人ひとりが思い、願い、そして行動することで、暮らしは変わる。まちは変わる。さあ、一步を踏み出しましょう！

本冊子の読み方（構成）

次期計画案は、大きく3つのパートで構成しています。

読み手である区民の皆さんに読んで使ってもらいたいのは、『手引き』のようにまとめた第2部ですが、実際に何かアクションを起こそうとする際には、『右京区役所や市役所』の制度・仕組みをまとめた第3部が役に立ちます。

また、それらの前提となる第1部も、この冊子をまとめた『区役所の想い』が詰まっている部分ですので、ぜひ読んでいただきたいと思います。

第1部

「わたしたち」が実現したい未来のための「右京区基本計画」

右京区役所から、次期計画案に込められた想いをお伝えするパート。

- ▶ これから右京区が目指したい将来ビジョン
- ▶ 何のための、どんな計画か

第2部

「わたしたち」が描く未来と実現のためのアクション

区民の皆さん一人ひとりが、実現したい未来やアクションを見つけていくに当たって役に立つプロセスや考え方をまとめ、皆さんに『手引き』のように使ってもらうことを想定したパート。

- ▶ まちを知る
- ▶ まちやくらしの未来を描く
- ▶ アクションを起こす

第3部

「わたし」と「わたしたち」をつなぎ・支える、右京区役所や市役所のアクション

右京区の将来ビジョンの実現に向けて、区役所等が果たす役割、そして、区民一人ひとりの行動や活動を支える制度・仕組みについてまとめたパート。

- ▶ 区役所等の役割
- ▶ 区役所等が運営する制度、仕組み

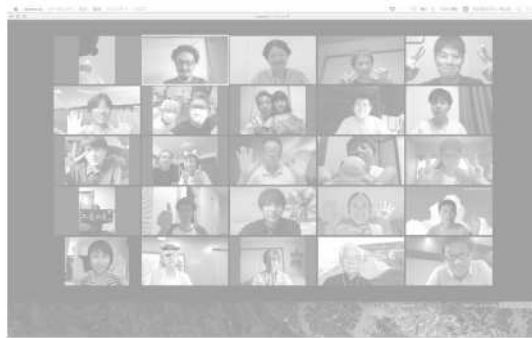
第1部



第2部



第3部



第1部「わたしたち」が実現したい未来のための「右京区基本計画」

あなたが手にとったこの冊子は、2021年から向こう5年間の、右京区という行政区のまちづくりの計画です。

最後まで読んでもらえたら、おそらく、自治体の計画と聞いてあなたが思い浮かべたものとは、違う印象を持たれるかもしれません。この計画では、右京区でくらす一人ひとりが、「わたし」を主語にしながら、まちやくらしのことを考えていくための、描き方やつくり方がされています。

どうしてこんな計画になったのか。この冊子のまとめ役である右京区役所から、次期計画案に込められた想いをお伝えしたいと思います。

=====

ー右京区が目指す将来ビジョンー

右京区の基本計画は、右京区のまちづくりの進展と密接に関わっています。

第1期 右京来夢らいと計画21（2001～2010年）

道路や公園、福祉施設など、都市としての基盤整備がまだ過渡期の時代でした。そんな中、地下鉄東西線の延伸に伴う太秦天神川周辺の拠点整備が基本計画にも位置付けられ、実現につながりました。

第2期 右京かがやきプラン（2011～2020年度）

多様なまちづくりの担い手による自主的な活動が広がってきた時代でした。そんな中、こうした活動に対する助成の充実や、区民・事業者、大学など多様な主体が連携・協力するための仕組みの構築などが基本計画にも位置付けられ、それが実行されることで、まちづくり活動の担い手がさらに広がりました。

こうして、時代の流れに応じて、区民のくらしにとって必要な施策を位置付け、その実現を目指す羅針盤となったのが、基本計画です。

では、これから5年後の右京区は、どんな未来を描けばいいでしょうか。その実現のためには何が必要でしょうか。

第3期（次期）右京区基本計画（2021～2025年）

どんな時代になっても、わたしたちが暮らしの中で直面する課題が無くなることはありません。

例えば、多様な価値観の共存、多様な生き方・暮らし方ができる社会の実現は、これまでわたしたちが目指してきたことのひとつだと言えます。

しかし、そのプロセス（過程）の中で、今まで一部の人たちにとっての問題としてあまり知られていなかったことが浮き彫りになったり、人と人の付き合い方・つながり方の変化に伴い、これまで支え合いやつながりづくりの原点であった、地域社会内での人間関係の薄れや自治活動の担い手確保が困難になるなど、新しい課題が出てきました。

また、人口減少の本格化や地球温暖化の加速、新型コロナウイルス感染症の拡大といった、社会全体で乗り越えなければならない難しい問題にも直面する一方で、その課題解決の担い手として先頭に立つはずの京都市は、深刻な財政難^{*}の状況にあります。（※ 9ページ参照）

「これは市民がやること」「行政が考えるべきこと」、そういった考え方の先にある未来はもう見えません。「自分には何ができるのか」一人ひとりが、自分自身のくらしやまちの未来のことを、本当に、真剣に考えなければいけない時がやってきているのだと思います。

今、一人でも多くの人がこうした課題に「自分ごと」として関わること、解決のために協力し合うことが、明るい未来の実現のために重要であると考えられます。

右京区のまちづくりの歩みから紐解く、未来のために重要なこと

第3期右京区基本計画の策定に当たり、まず、「第2期」に掲げられた施策や地域の取組の、これまでの成果を検証しました。その中で、様々な社会課題、地域特有の課題も含めて、解決の鍵は『地域力』にあることを再認識することができました。住民がまちのことに関心を持ち「自分たちのまちは自分たちでつくる」という意識で、互いに協力し合いながら、解決のために取り組むことで培われる『地域力』をさらに向上させることが、今後生じる新たな課題への対応も含めて重要です。

「第2期」のところでも述べたように、右京区では、この10年でまちづくり活動の担い手が広がり、『地域力』は確実に高まっています。地縁のつながりだけではない市民活動が次々と生まれ、地域企業や大学等も、右京区のまちづくりに一層深く参画されるようになってきました。

こうした、右京区のまちづくりの歩みから「現在地」を確認し、これからの「未来」を見据えた結果、次は、この機運が「一部の人たち」にとどまることなく、さらに「区民一人ひとり」に広げていくことが、右京区にとっての大きな課題であり、次期計画案はここに焦点化し、目標として設定することとしました。

以上のことを踏まえ、次期計画案では、次ページのような「右京区の将来ビジョン」をイメージしました。

右京区の将来ビジョン

右京区でくらす一人ひとりが、「わたし」と「わたしたち」の幸せな未来を思い描き、その実現のために行動している。

そうした先に、右京区では、誰もが、人と人とのつながりを持ちながら、自分らしく、心豊かにくらすことができている。

そんな右京区では、くらす人たちがこんな考え方や姿勢になっている

「多様性」を力に変えていく

一人ひとりが自分以外のことに関心を持ち、多様な個性や価値観の違いを互いに尊重しながら、その多様性をエネルギーに変えていく。

「くらしにくさ」を伸びしろにする

くらしの中の「不満」や「不便さ」を残しながらも、それを楽しみながら、みんなで解決していく。

「お互いさま」で支え合っていく

人と人がゆるやかにつながって、ほどよく甘えたりお節介し合いながら、日々の困りごとを解決していく。

「やってみよう」を応援する、 チャレンジする

一人ひとりの「やってみよう」や「地域・社会のためにやってみよう」という行動を、互いに支え合いながら積極的にチャレンジしていく。

今回の基本計画の策定プロセスにおいて、世代も業種も様々な人たちが集まり、実現したい未来について語り合ってきた中で、目指したい未来は一人ひとり違っていても、みんなで共有できそうな、軸になるものが見えてきました。

それを、右京区の将来ビジョンとつなぎ合わせて、これからのわたしたちの行動のもとになる考え方や姿勢として、この4つのキーワードで表現しました。

将来ビジョンの先にあるレジリエント・シティ／SDGs

あらゆる危機に対して、しなやかに力強く乗り越え、将来にわたって持続可能な魅力あふれるまちのことを指す「レジリエント・シティ」。「誰一人取り残さない」を合言葉に、持続可能な社会の実現を国際社会全体で目指す17のゴール（目標）である「SDGs」。これらは、京都市でもあらゆる施策に取り入れていこうとしている、社会共通の大きな目標ですが、その達成には、一人ひとりが自分ができることに取り組んだり、共創することが必要です。

例えば、地球温暖化の問題。京都市では2050年ごろまでに二酸化炭素排出量「正味ゼロ」を目標に掲げており、これは一人ひとりの小さな努力の積み重ねがあってこそ実現できるものです。

課題や目標が大きければ大きいほど、自分からは遠い話のように考えがちですが、一人ひとりが「わたし」の目線で、「自分のやっていることは何にどうつながっているんだろう」「自分にできることは何だろう」と考え、行動する。その小さなアクションが集まれば、世の中を動かしていく大きな力になります。右京区の将来ビジョンが実現したその先には、こうした社会共通の大きな目標の達成にもつながっていきます。



非常に厳しい京都市財政 ～持続可能な行財政の確立に向けて～

財政が厳しい中でも充実した行政サービスを維持

市民一人当たりの市税収入が他都市より少ない中、全国トップ水準の福祉・医療・教育・子育て支援などを実施。その水準を維持するため、職員数の削減や事業の見直しなどの行財政改革を行ってきました。

しかし、国からの地方交付税が大幅に削減され、収入が伸び悩む中、高齢化による社会福祉関連経費などの支出が増加。宿泊税の導入など税収増の取組や行財政改革を実施してもなお、支出が収入を上回る状況が続いており、将来の借金返済の積立金（公債償還基金）などを取り崩し、将来世代へ負担を先送りしている状態です。

<具体的成果>

- 保育所など待機児童が7年連続ゼロ
- 大雨への浸水対策済み面積割合が全国トップ水準（市91%、全国58%） など

今後の収支見通しと財政再生団体になる危機

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、市税収入の回復が見込めない中、社会福祉関連経費の増加が続くことで、今後、毎年度500億円もの財源不足が見込まれており、最悪の場合、財政再生団体になると、最低限の行政サービスしかできず、税金やさまざまな料金が値上げとなります。

<影響（例示）>

- 国民健康保険料3割値上げ
- 保育料4割値上げ など

今後の改革の視点～最悪の事態を回避し、明るい未来を展望～

本市の財政状況や各施策の効果等を市民の皆さんと共有し、そのご理解のもと、真に必要な施策を持続可能にするための事業見直しや、公共施設の適正管理・受益者負担の適正化等に取り組むとともに、若者や企業の定着を図り、支え手を増やすことで税収増につなげ、全ての世代が暮らしやすく、魅力・活力あるまちを目指します。

<具体的方針>

- 若者・子育て世代の定住促進
- 景観の保全と活力あるまちづくりの両立 など

－「わたし」が、まちやくらしのことを考え行動するための基本計画－

「みんな」で目指すまちの将来ビジョンを掲げ、その実現のためにやるべきことを書いてあるのがこれまでの基本計画のつくり方で、そこでは、計画に書かれたことがどれだけ出来たかが大事になってきます。

一方で、次期計画案で描く右京区の将来ビジョンは、「みんな」ではなく「わたし」が主語です。やるべきことは計画の中ではなく、皆さん一人ひとりの中にあります。どれだけ多くの人が、「わたし」を主語に意識や行動を変えていくことができたかで、5年後の右京区の未来が変わってきます。

次期計画案は、右京区でくらす一人ひとりが幸せな未来を思い描き、行動するに当たっての『ガイド役』を担い、また、一人ひとりが考え、話し合い、行動していくことでどんどんアップデート（更新）されていく、「生きている計画」となるようまとめました。

基本計画の役割（策定目的）

- ・ 「わたし」と「わたしたち」の幸せな未来を思い描くための、新たな気付きを得るもの。
- ・ 何か行動しようと思ったときの羅針盤となるもの。

基本計画の特徴

読み手一人ひとりにとって「わたし」が主語になるように。

行政も含めた右京区に関わるすべての皆さんそれぞれにとっての未来を実現するための計画として、読み手一人ひとりが主語になるよう工夫しました。

読み手自ら考え、行動するためのスタートラインとなり、未来の実現に向けた道筋を考えるヒントに。

この計画は「完成図」ではありません。皆さん一人ひとりにとってのスタートライン（出発点）や、未来の実現に向けた行動の仕方をイメージし、考えるヒントになるよう、とりまとめました。

右京区基本計画と京都市基本計画は、「互い補完し合う」関係にあります。

市民一人ひとりが自分とまちとの関わりを意識し、自分にできることを考え、行動する。そうした小さなアクションの積み重ねが、世の中を動かしていく大きな力になります。この「地域の力」を高めていくための道筋を示すのが、「右京区基本計画」です。

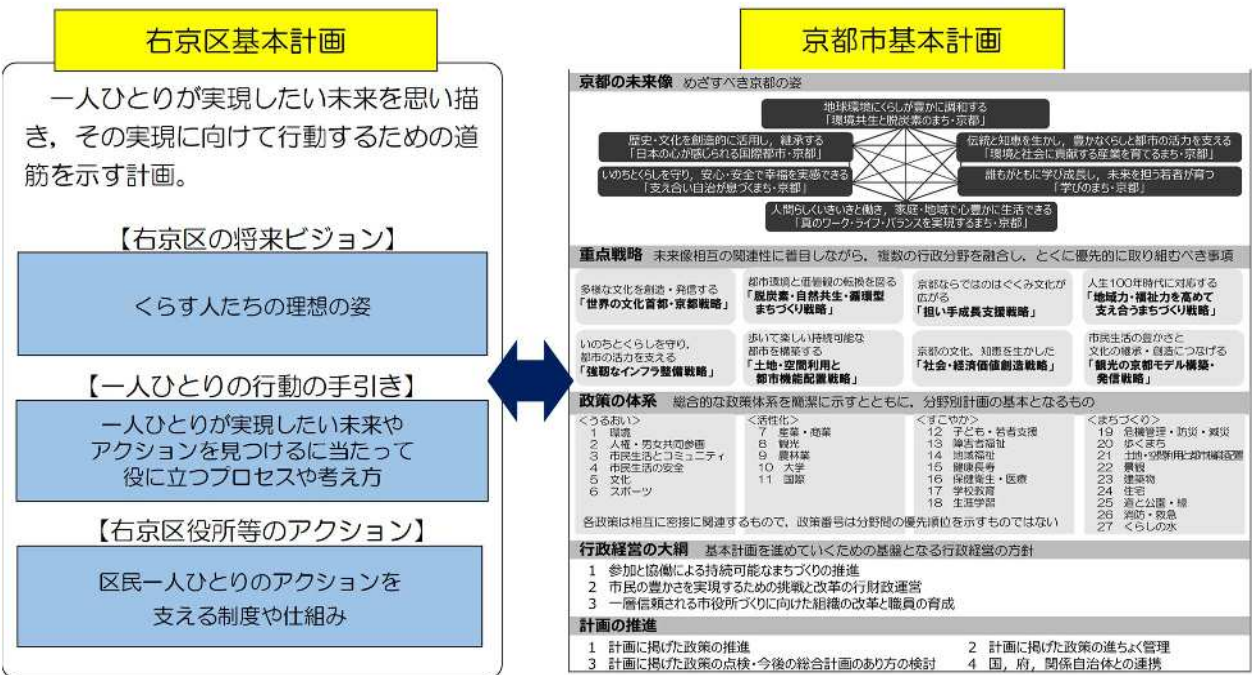
相互補完の関係にある「京都市基本計画」は、さまざまな主体と行政が協働し、市民の視点から目指すべき「京都の未来像」の実現等に加え、行政改革などの視点も盛り込み、全市的観点から取り組む主要な政策を示すものです。

まちの未来のために、誰が誰と、どう進めていく？

京都市では、京都のグランドビジョンを描いた「京都市基本構想」において、「信頼」を基礎に社会の再構築をめざすというまちづくりの方針を理念的に示し、その中で、市民参加によるまちづくりの推進等を掲げています。

右京区基本計画と京都市基本計画との関係は？

京都市では、京都市基本構想を具体化するため、一人ひとりが実現したい未来を思い描き、その実現に向けて行動するための道筋を示す「右京区基本計画」と全市的観点から取り組む主要な政策を示す「京都市基本計画」をそれぞれ策定し、2つの計画を相互に補完し合う関係として位置付けています。



背景となる社会経済情勢の変化

わたしたちのくらしは、さまざまな社会的課題に直面しています。もうすでに顕在化しているもの、将来予測として長期的に見込まれるものなど多岐にわたりますが、いずれも市民と行政が力を合わせて乗り越えていかなければならない難しい問題ばかりです。

以下の4つは、特に注目すべき社会経済情勢の変化の一部をまとめたものですので、ぜひ、自分とまちとの関わりについて考えるきっかけにさせていただきたいと考えています。

人口減少の本格化

国の長期推計では、京都市の令和27年人口は約130万人になると推計されており、少子化傾向の継続や高齢者の増加と単身化が進むと見込まれています。

また、人口構造の変化や地域社会における関係の希薄化等により、さまざまな分野における担い手不足やまちの活力低下、社会的孤立の増加が懸念されています。

このため、子育て世代の定住促進や働く場の確保等により、魅力や活力ある持続可能な都市を構築する等を通じて、都市のレジリエンス*を高めていく必要があります。

※ 様々な危機からの回復力、復元力、強靭性（しなやかな強さ）を指す。

地球温暖化の加速

地球温暖化が一因とされている海水面の上昇や台風等の異常気象が世界各地で増加し、災害による人命を脅かす危機や、熱中症や感染症などの健康被害、水や食料の不足などの深刻な影響が現れています。

先駆的に地球温暖化対策に取り組んできた京都市では、2050年ごろまでに二酸化炭素排出量の「正味ゼロ」に向けて、市民、事業者、行政が一丸となって、温室効果ガス削減を進める緩和策と激甚化する災害等による被害の軽減・防止を図る適応策を進めていく必要があります。

グローバル化の進展

人・もの・資金・情報の流れが地球的規模で拡大し続け、世界各地間の相互依存が深まっています。あらゆる面でグローバル化が進んでいたなか、新型コロナウイルス感染症が瞬間に世界各地に広がり、医療・健康面のみならず、世界経済へも甚大な影響を及ぼしています。

誰一人取り残さないという理念のもと、社会・経済・環境の3側面について、すべての国が取り組むべき目標を示したSDGs*の達成に向けた取組が進められています。

※ 平成27(2015)年の国連サミットで採択された、令和12(2030)年までを期間とする国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットを定めたもの。

産業構造の転換と厳しい京都市財政

新型コロナウイルスの流行は、多分野の産業に大きな打撃を与えました。新しい生活スタイルへの対応、ポストコロナ社会を見据え、AI等のデジタル技術を取り入れ、Society5.0*の実現や働き方改革などを推進し、持続可能な経済を確立することが求められています。

また、京都市財政は危機的な状況にあり、歳入歳出両面からの改革に加え、機動的で効率的な行政組織の構築などを一層強力に進めていくことにより、持続可能な行財政の確立をめざす必要があります。

※ 先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会

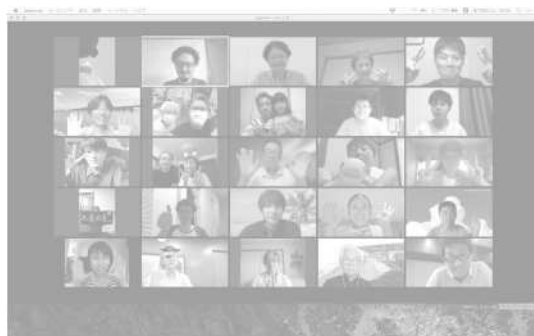
第1部



第2部



第3部



第2部 「わたしたち」が描く未来と実現のためのアクション

—まずわたしたちができること—

子どもの頃、「こんな未来になったらいいなあ」「こんな仕事やくらしができたらいいいなあ」という夢を思い描くことは、おそらく、わたしたちみんなが経験しています。

しかし、大人に近づくにつれ、だんだんと目の前にある「現実」という名の様々な課題への対応に追われるようになり、未来について考えることから遠ざかってきているのではないのでしょうか。

もちろん、今も「〇〇〇になりたい」という夢を追い、それに向けて努力を重ねられている方もいらっしゃるでしょうが、まちの様子やくらしぶりについて考えたり、それに向けて行動しておられる方となると、ぐんと少なくなると思います。

将来どんなくらしをしていきたいか、そのために右京区はどんなまちになってほしいか、一度立ち止まって、「わたし」の視点で未来を思い描いてみる。

まず、このアクションに取り組んでみませんか。

そして、その未来の実現のために、ほんの一步でも、半歩でも、今の「わたし」でも出来そうなことをやってみる。これだけでも、未来は確実に引き寄せることができます。

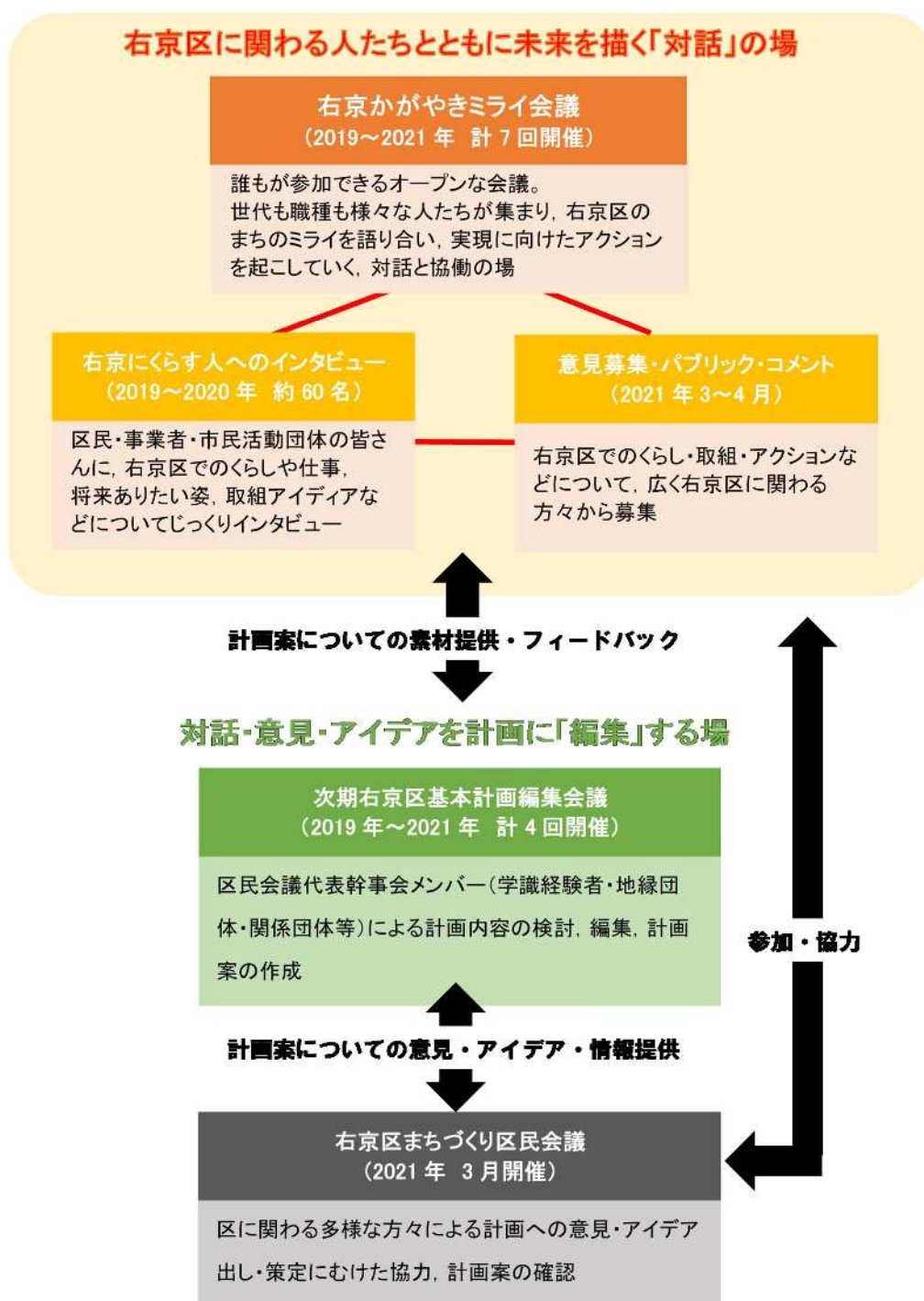
また、ちょっと恥ずかしいかもしれませんが、他の人に「わたし」が実現したい未来を語ってみる。他の人の意見や、他の人が思い描く未来を聞いてみる。今、そしてこれから「わたし」が何をしたらいいかなかなか見つからない時は、これがとても効果的です。他の人が描く未来の姿との共通点が見つかり、きっと嬉しくなると思います。

たくさんの方の想いがつながれば、「わたし」の実現したい未来は「わたしたち」の実現したい未来となり、たくさんの方の行動で、より一層、その実現に近づくこととなります。

－アクションを広げるために－

右京区役所では、令和元年12月から、「右京かがやきミライ会議」（以下「ミライ会議」といいます。）などを開催し、右京区で暮らし、働くたくさんの方が「対話」を重ねながら、実現したい未来を思い描き、そのためのアクションについて考えてきました。

第2部では、ミライ会議で参加者の皆さんが語り合ってきた意見等の一部も紹介しています。これらも参考に、「わたし」は何をどうすればいいのか、具体的なイメージを持っていただきながら、読み進めていただければと思います。

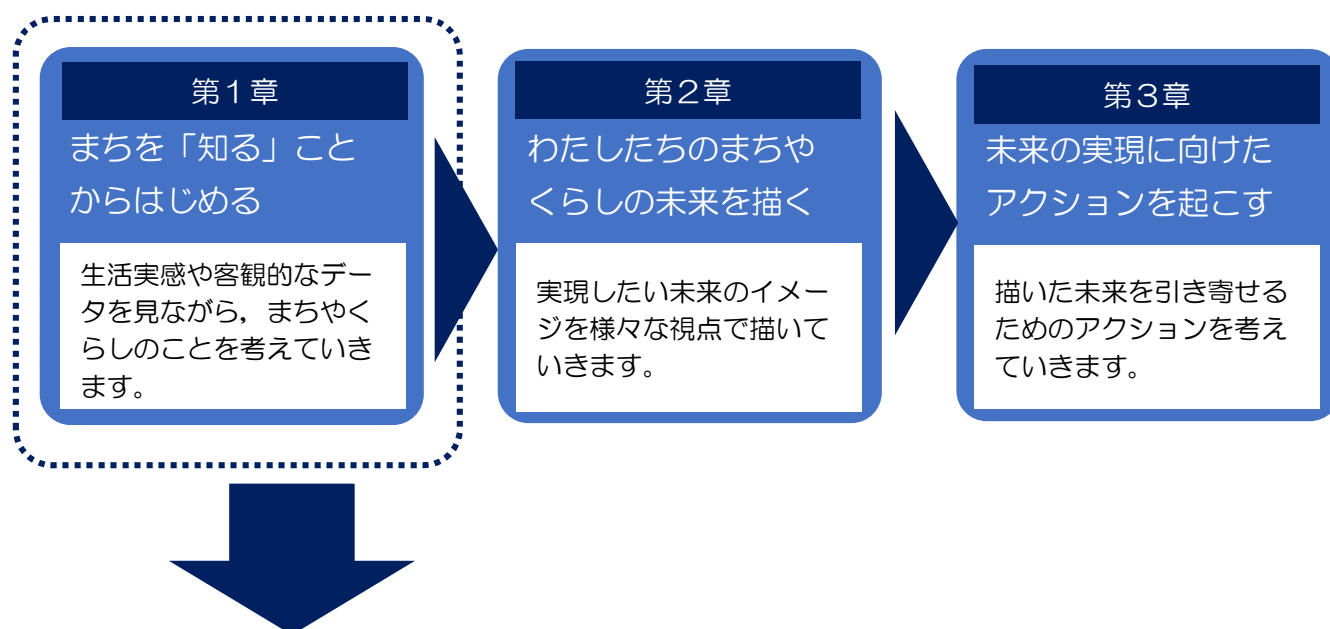


そうして、ミライ会議のプロセスも参考にしながら、まず一人ひとりが、自分なりの実現したい未来やアクションを見つけていく効果的な方法をお示ししています。**重要なポイントは、他者との対話を通じて、頭の中を整理したり、新たな気づきを得たりしていくことです。**

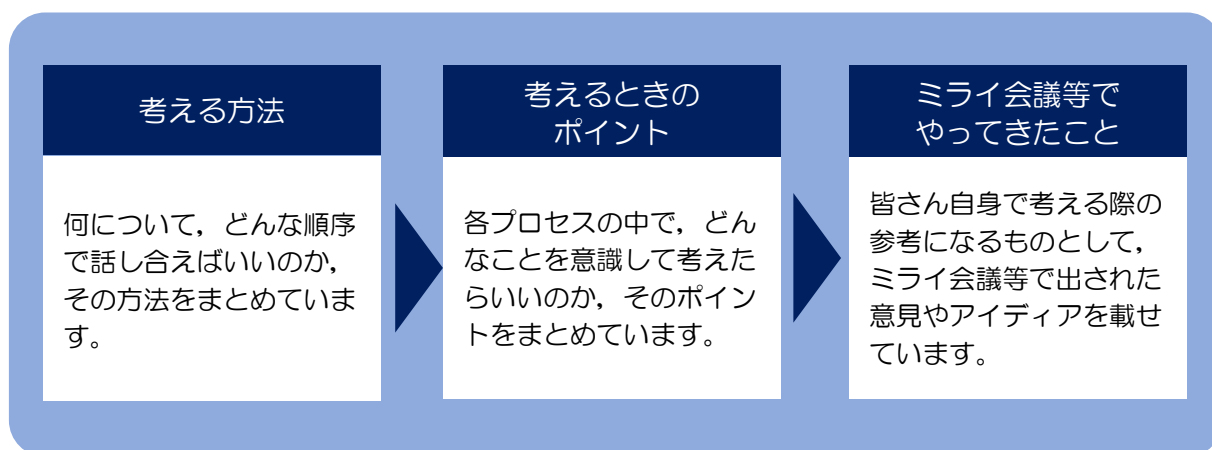
次の第1章から第3章までに対応するプロセスで、ミライ会議では主に7回の対話を重ねましたが、「どういうテーマで、誰と話し合うのか」、「対話の機会が何回取れるか」によっても進め方は変わってきます。

この基本計画を参考にしながら、家族や仲間・地域の人たちと、出来る範囲で、それぞれの実現したい未来のイメージや、そのために取り組んでみたいことを話し合ってみましょう。

<第1章～第3章の全体構成>



<各章の中の構成>



第1章 まちを「知る」ことから始める

まちを「知る」方法

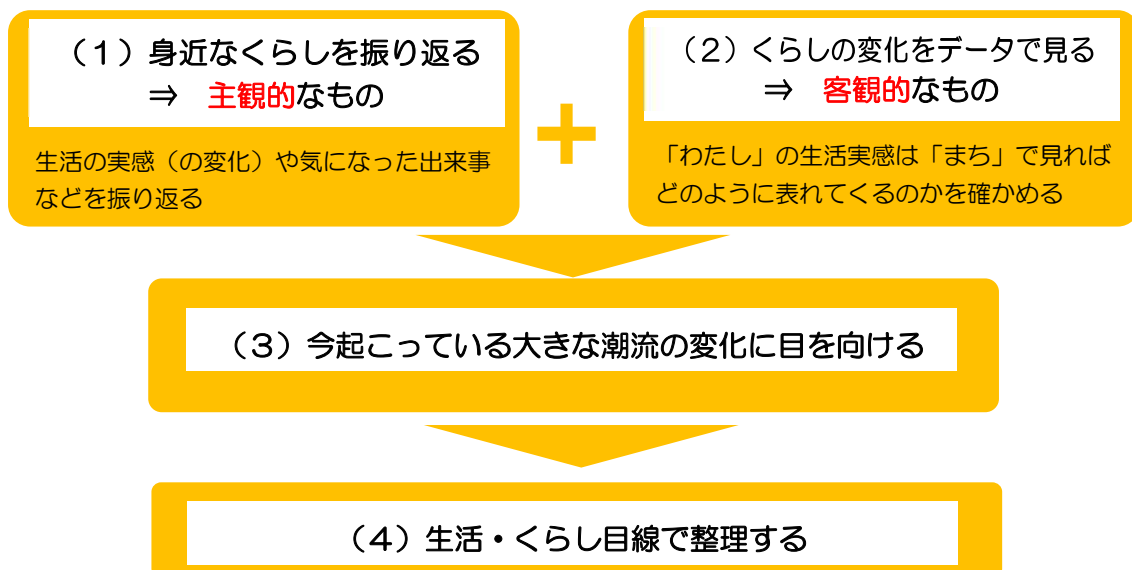
「こうなったらいいな」「こうありたい」という実現したい未来のイメージを描いたり語ったりする前に、「わたし」にとってこの「まち」はくらしよいか、どうなのか、まずそのあたりを整理するのがいいと思います。そのために、まずは、まちの今とこれまでを「知る」ことから始めていきましょう（ここでは「右京区」を「まち」と表現します）。

大切にしたいのは、「わたし」の目線。「わたし」にとって、このまちは住みよいかどうか。生活実感から振り返ってみましょう。

そしてもう一つ、出来ればやってみたいのが、京都市などが公表している客観的なデータを見ることです。主観と客観の両方を重ね合わせていくことで、リアルで、かつ裏付けのある、まちやくらしの現状を知ることができます。

もちろん、未来に影響を及ぼしそうなこと、例えば、人口減少の本格化や地球温暖化の加速、新型コロナウイルス感染症の拡大といった、社会の大きな潮流の変化に目を向けていくことも大切です。

まちの今とこれまでを生活・くらし目線でまとめてみると、自分自身がどんなことに興味・関心や問題意識を持っているのかも分かり、頭の中の整理がつき、実現したい未来のイメージを思い描く足がかりになります。



(1) 身近な暮らしを振り返る

【考えるときのポイント】

自分自身の身近な生活と「まち」との関わりを振り返ってみる、このプロセス。

「そんなこといきなり言われても…」という人もいるかもしれませんが、こういう時、こんなことが嬉しかった、楽しかった、辛かった、頑張ったなど、具体的な経験・エピソードを思い返してみると、意外とその時の「まち」の様子との関わりが見えてくるかもしれません。

住んでいる場所やそこでの暮らし方、価値観は一人ひとり違います。

だからこそ、まちにくらすわたしたちの生活実感といっても、見えている景色も様々です。

自分の経験だけでなく、他の人たちの経験を重ね合わせることで、改めて気付くこと、新たに知ることもあると思います。自分で振り返ってみたら、次にいろいろな人たちと語り合ってみましょう。きっと、もっと様々な視点からまちや暮らしを見ることができるようになるでしょう。

右京区にくらす一人としてのリアルな実感、あなたにはどんなことが見えてくるでしょうか？

=====

【ミライ会議等でやってきたこと】

ミライ会議では、この10年を振り返って、身近なところでどんな出来事があったのか、今の暮らしにどんな実感を抱いているのか、お互いに語り合い、共有しました。

その中で出された、暮らしの中の出来事や生活実感の一部を紹介します。

ミライ会議では、この10年間での印象的な出来事を巨大な年表に貼っていく作業をしました。



目に見えるまちの変化から肌感覚として感じている変化、駅や公園などの公共施設から近所の馴染みの店の变化まで、くらしの中で人それぞれに感じる様々な変化が出されました。

印象的な出来事等

2011(平成23)年～2013(平成25)年頃	2014(平成26)年～2016(平成28)年頃	2017(平成29)年～2019年(平成31・令和元)年頃
	京北への道路環境向上 2014：トンネル開通 モビリティマネジメント進展 2014：市バス70系統；黒字化達成	年代不詳含む 三多送香 車電・阪急のアクセス改善・リニューアル (例) 2015：阪急西京橋駅前広場整備 2016：車電博影前駅新開業 2017：西院駅改修・改善 等 災害での道路通行止め・停電 2017：台風によるR162通行止 等
	特に海外からの観光客が増加 嵐山等・京北にも 観光客向けの店舗や宿泊施設の増加 (例) 2013：嵐山駅「キモノ・フォレスト」 (例) 2018：「ファーストキャビン京都嵐山」 等	
地域の飲食店がオープン (例) 2013：キネマキッチン、洋食西原 2014：IKEYA 等	オーパーツリズム問題、民泊増加 (例) 2018：「ファーストキャビン京都嵐山」 等	地域のお店の变化 コンビニ増加・ドラッグストア増加 2015：京北にコンビニ出店
		地域の昔からの商店の閉店・新店・人気店も閉店 (例) ケーキ店・銭湯・牛乳店・スーパー・パン屋等 スーパー営業時間の短縮
「働き方改革」の進展 働き方への意識がさらに高まる 「ワークライフバランス」への関心がさらに高まる (例) 2012：育児・介護休業法施行 2019：改正労働基準法施行 等		
2012：西京橋西児童館 開館	2016：梅津フケノ川公園 開園	子どもを支える拠点の増加 (例) 2017：西院ふれあい食堂(子ども食堂)開設 放課後等デイサービス増加 等
	2015：山ノ内浄水場跡に京都学園大学(現：京都先端科学大学)等ができた 天神川周辺で学生を多く見かけるようになった	
まちを楽しむ活動の進展 (例) 2011：西院ミュージックフェスティバル10周年 2012：京北サイクリングマップ作成 2013：てくてく太秦マップ完成 等	文化、芸術、アートの活動拠点や団体が充実 (例) 2013：ひよっこおどりの会始動 2014：「嵐山界龍苑」オープン 2015：SANSU芸術の社開始 2016：小劇場「シアターウル」オープン 2018：嵯峨嵐山文筆館オープン 2019：福田美術館オープン、「けいぼく うたと未来コンサート」開催等	
	右京を舞台とした映画の公開 2014：映画「太秦ライムライト」 2019：「嵐電」	
健康まちづくり活動の広がり サンサ健康広場の広がり、まちづくり支援制度に健康まちづくり活動が増えてきた		
		2017：太秦病院開業 2019：民医連中央病院開業
様々な防犯活動の進展 (例) 2011：「嵐電パトトレイン」 2014頃～学区内防犯カメラの設置・拡大 等		
	台風・豪雨被害甚大・回数増加・防災活動の進展 2013：台風18号被害等 大雨や台風の激しさに避難所が開設される学区が増えてきた 2018：台風21号で水電地域長期間停電に。電気自動車で電気配給	
まちについて考え・話し合う場の広がり (例) 2011：「ジュニア円卓会議」「右京区まちづくり区民会議」開始 2013：「まちづくりキャンパス@右京」開始 2019：「右京かがやきミライ会議」開始 等		
交流・連携活動の広がり (例) 2011：「太秦太鼓クラブ」結成(現「多世代交流音楽クラブ」) 2014：高雄マウンテンマラソン開始 2015：右隣竹灯籠開始 等		
地域メディアの広がり・充実 (例) 2012：ローカル紙「右京じかん」創刊 2013：「右京コミュニティTV」開設 2018：右京ファンクラブなっと開設 等		
地域の集う・活動する拠点の充実 (例) 2013：MACHIKOオープン 2014：キョウノヨリミチ、太秦古心庵オープン 2015：まちづくりコンシェルジュ設置 等		

今の暮らしの「良いところ」、「不満なところ」について、それぞれが思うことを出し合い、共有しました。



また、ミライ会議の参加者以外にも、右京でくらすいろいろな方々にじっくりと想いを聴くインタビューを実施。



「右京のまちの印象は？」
 「暮らしの困り事や将来への不安は？」
 暮らし方によって価値観や生活実感は本当に様々。

多彩な顔を持つ右京区には、豊富な資源があることをみんなで再認識。一方で、くらしにくさや将来への不安を感じることも。

生活実感

公共交通が充実し便利な生活を送れている。	食料品、生活用品を調達するスーパーやホームセンター等は充実し便利である一方、昔からあるお店が減ってきた	農林業や伝統工芸もあるが、生計を立てる難しさ、後継者不足。農地では獣害も。	子どもが近所で遊べる場所が少ない
道路や交通事情がよくないところがある ・歩道が狭く危険（三条通など） ・歩道や駅のバリアフリーが不十分 ・北部山間地域へのアクセスが悪い	まちがきれい・おしゃれに 西院・花園	便利な世の中、ニーズの多様化、インハウンド需要等の社会情勢に合わせ、個人商店の生き残り戦略が必要	学習や習い事などもあり、外で元気に遊ぶ子どもの姿をあまり見なくなった
観光地が賑わう一方で、道路渋滞やバスに乗れないなどの生活への影響も生じている	生産地と近く、新鮮食材が身近で手に入る		特に区南部で子育て世帯が多い希望する保育園に入れない人もいる、病児保育がない
名所、観光地が多い。文化・芸術やアクティビティを楽しめる場所がある。	高齢化、介護を必要とする人の増加	空き家や空き地が増えている	多世代のつながり・障がい者への理解が増してきたと感じるが、多様性への理解、不寛容さはこれからの課題
歴史的な文化財・古場が身近にある。		自治会・町内会の加入率低下、担い手不足・高齢化、地蔵盆の開催が危ぶまれる 高齢者間や新住民との関わりの希薄化 単身高齢者の増、見守り体制の充実が必要	京北地域への距離感（物理的・精神的）を感じる。広い右京区だからこそ一体感を持ちにくく、知らない場所も多い。
大学が多く、まちが若くて活気がある。		災害への不安増（危機意識の低下懸念も）	個人情報保護の徹底による、つながりにくさを感じる。

(2) 暮らしの変化をデータで見る

【考えるときのポイント】

生活実感として出てきた、リアルな暮らしの姿。でも、これだけで右京のまちのすべてを知ることは難しそうです。ここにはいない人たちの暮らしにも思いを馳せていく必要があります。

ちょっと上級編ですが、それを知る方法のひとつが、京都市などの行政や、調査機関などによって公表されている「統計データ」を見ることです。

統計データは、過去・現在・（ものによっては未来）を比較できるツールです。まちの様子や人々の意識の「変化」を客観的に見ることができます。

統計データを見るのに慣れておられる方、そうでない方がおられると思いますが、できる方は、ぜひ、生活実感で出てきた気になるテーマを挙げ、それに関連する統計データを探してみましょう。ズバリそのもののデータが無かったとしても、あるものの中で推測を立てることもできます。

大事なことは、「なぜそうなったのか」。変化の背景にあるものを推理・想像してみましょう。

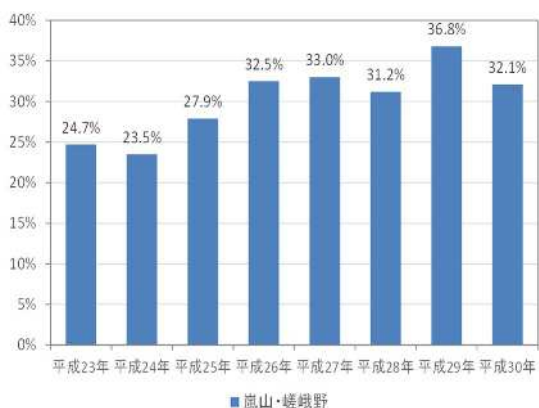
探してきたデータと自分の生活実感（経験）と重ね合わせたときに、あなたにはどんなことが見えてくるでしょうか？

【ミライ会議等でやってきたこと】

ミライ会議では、生活実感として語り合ってきた身近な暮らしの変化について、関連しそうなデータを区役所職員が集めてきてお示しました。ここでは、その中の一部を紹介します。

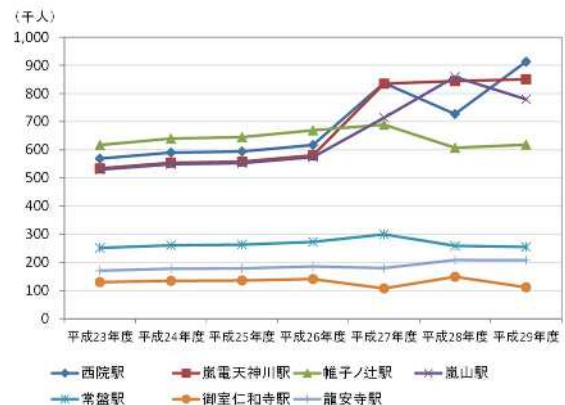
嵐山・嵯峨野を訪れる外国人観光客の割合が上昇、嵐電では他の鉄道との接続駅（西院駅・嵐電天神川駅）と嵐山駅では乗客が増加しており、利便性が向上、観光客が増加していることが分かりました。

京都市を訪れた外国人観光客のうち、右京区内の観光地を訪問した人の割合の推移
(出典：京都観光総合調査)



京福電鉄（嵐電）各駅の乗客数の推移

(出典：京都府統計書・京都市統計書)

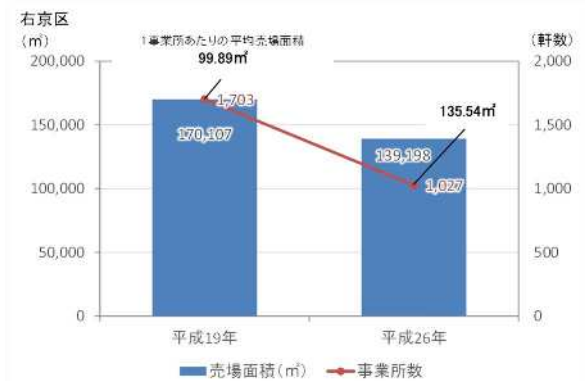


小売業は事業所数が減り、売り場面積も減っていますが、1事業所あたりの面積は広がっているようで、大きな店舗は残り、小さなお店が減っていることが分かりました。

確かに比較的小さな、昔からある地元のお店が減っているのかもしれませんが。

小売業の事業所数・売り場面積の推移

(出典：商業統計調査)



空き家の種類別空き家数の推移

(出典：住宅・土地統計調査)

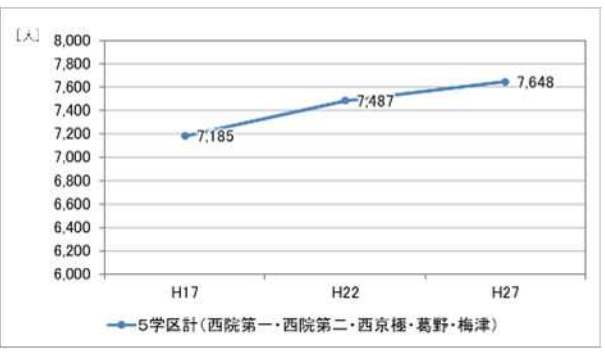


空き家の数は少し増えているだけで、たくさん増えているわけではないことが分かりました。ただ、管理されず問題が起きやすい利用予定のない「その他」の空き家が増加しているため、わたしたちが日々のくらしで気になるような「空き家」が増えているように感じられるのかもしれません。

右京区南部の西院第一・第二・西京極・葛野・梅津では、子どもの数が増えていることが分かりました。

区南部の子ども(0~14歳)の数

(出典：国勢調査)



介護を必要とする人の数

(出典：区政概要)



高齢化が進んでいることもあり、やはり介護を必要とする人は年々増加していることが分かりました。

(3) 今起こっている大きな潮流の変化に目を向ける

【考えるときのポイント】

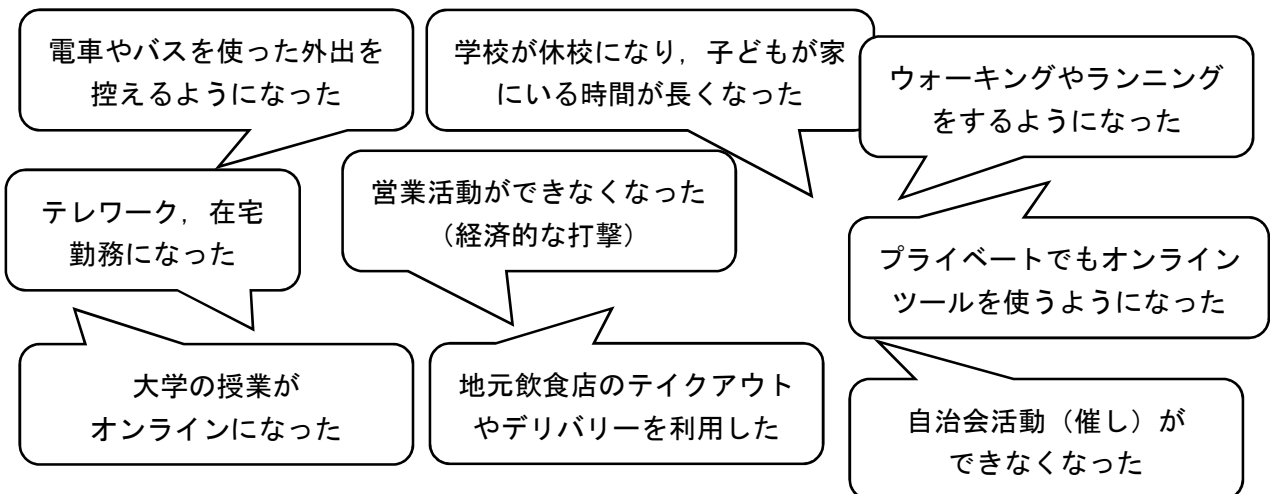
新型コロナウイルスの感染拡大による様々な制限・自粛。この突然で急激な変化は、わたしたちのくらしや地域活動に様々な影響をもたらしました。

このほか、人口減少や地球温暖化といった社会課題も、わたしたちの未来に大きな影響を及ぼす可能性があります。これらの大きな潮流の中にある「わたし」の目線で、くらしや気持ちの変化を考えてみましょう。

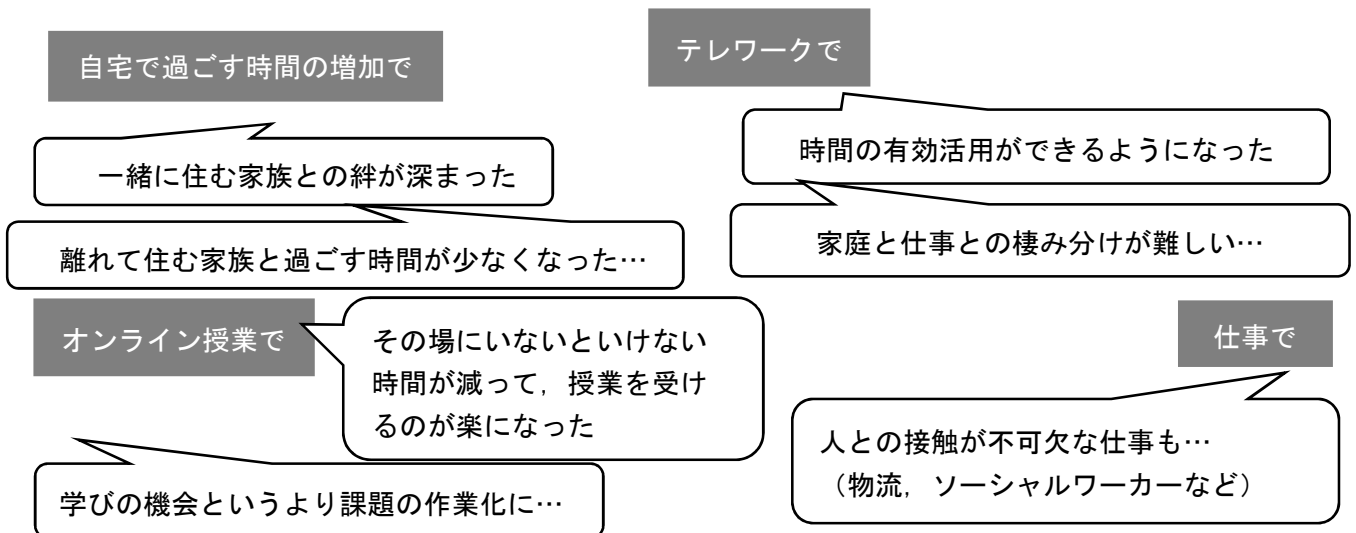
【ミライ会議等でやってきたこと】

新型コロナウイルス感染拡大による自粛期間中に、オンラインでミライ会議を開催し、コロナ禍で起きているくらしや気持ちの変化について話し合いました。また、右京区役所ホームページ上のアンケートでも、「コロナで変わったわたしのくらしと気持ち」について、右京区でくらす人たちから投稿してもらいました。そこで語り合ってきた、くらしや気持ちの変化の一部を紹介します。

移動する、はたらく、学ぶ、食べる、つながる・・・くらしの中の様々な場面で変化が。



変化に対応することで生じている明暗も・・・



これからの暮らし方の選択肢を広げた

オンラインや非接触でも「できる」ことが増えた

- ・学ぶこと、教えること
 - ・何かを表現すること、生きるために稼ぐこと
 - ・何が大事な活動で、何がそうでない活動なのか
- 今まで当たり前だったものを考えるきっかけになった

改めて自分にとって大切なことを考え、気づききっかけに

人と対面で会うこと、話すこと、つながることってやっぱり大事なんだなと思った

人との価値観の違いが見え、同じ価値観を求めがちな自分に気づいた。人への思いやりが大事

家族や親しい人との付き合いを大事にしたい

これから大切にしたいこと

価値観の違いや多様性を尊重するとともに、変化に取り残されそうな人へ寄り添うこと

周りの変化にも、しなやかに対応していきたい

自分が大切にしたいことを考え、暮らしの中で自分なりの正解を見つけ、選択していきたい

(4) 生活・くらし目線で整理する

【考えるときのポイント】

わたしの右京区でのくらしは、この10年でどのように変化してきたのか。そして今、どんなことに魅力や課題を感じているのか。まちに対する印象、興味・関心や問題意識も、多くの方が集まり、寄せ合えば、実に広い範囲にわたることが分かります。

「わたしたち」の未来を描くためには、「わたし」にとっての右京区について語り合う「対話の場」というのが不可欠です。

【ミライ会議等でやってきたこと】

ミライ会議などで語り合ってきた生活実感や出来事、コロナ禍での変化や統計データをもとに、まちの現状をまとめてみると、次の9つの分野に整理できました。これがミライ会議で「わたし」と「わたしたち」の未来を描いていく下地となりました。

①移動する（観光）

交通機関による利便性向上などもあり、移動しやすく利便性も高い右京区ですが、京北地域など地域によってはその移動に不便もあり、またコロナ禍による移動制限や感染予防対策で交通機関での外出がしづらくなり、自宅等周辺を徒歩、マイカーでの移動が多くなった側面もあります。また、観光客が多い季節等は、日常生活の移動に支障が生じている課題もあります。

②食べる・買う

人気店やお洒落なお店が増えてきたエリアもある一方、昔ながらのお店や個人経営のお店、地元資本のお店の閉店も目立つようになってきています。店舗の大型化や営業時間の短縮などの変化も表れています。さらに、コロナ禍による客数減少などを理由に閉店・休業・営業時間短縮するところも出てきていますが、機会を捉え、テイクアウト等で新たなお店との出会いや顧客獲得につながっているところもあります。

③稼ぐ・商う

農林業や伝統産業など、これまで右京区にあった仕事や商いの存続に対する危機感があります。また、消費者ニーズの多様化やコロナ禍による影響等に合わせ、個人商店の生き残りのための戦略が求められています。コロナ禍による影響が大きいところでは、営業ができない、働けないなど、稼ぐことが困難になっている状況も生まれています。

④はたらく

少子高齢化の進展、ライフスタイルの多様化、女性や高齢者の働き方の広がり、一人ひとりのスキルやキャリアに対する意識の高まり、コロナ禍も契機としたテレワークの広がりなど、今までとは違う一人ひとりが輝き、社会に貢献できる「はたらき方」が求められています。

⑤育つ・育てる

一部地域では人口、子どもが増えているところもあり、子育て環境の充実が求められています。子どもや子育てを支える拠点や活動が広がっていますが、子どもの遊び方や取り巻く環境、コロナ禍の影響による保育・教育のあり方、親の状況や子どもへの関わり方の変化への対応も求められています。

⑥学ぶ・遊ぶ・楽しむ

身近なところに歴史や文化を感じることができる環境があり、最近ではキャンパスが新たにできたことも含め、市民による様々な文化芸術、学びやまちを楽しむ活動の広がりが生まれています。一方で、それらのつながりがまだ弱い、知らないことも多いという声もあり、また、コロナ禍において、学生や市民が学び、楽しむ環境に制限が生じ、その方法に変化が求められています。

⑦健康にくらす

高齢化にともない、介護を必要とする人が増えており、今後さらに増えることが想定されます。健康まちづくりの活動が広がってきたように、今後、市民一人ひとりの健康にくらすためのライフスタイルの実現、感染予防の視点からの新たな生活様式への対応、健康にもつながる地域での活動が求められています。

⑧身を守る・支え合う

頻発する自然災害もあり、防災意識が高まり、地域の自主防災活動が広がっていますが、さらなる充実が求められています。自治会等の地域コミュニティは高齢化や担い手の不足、参加の広がりが少ない、活動の停滞などの課題があります。コロナ禍において、集まらなくても支え合い、つながることができる新しい地域活動スタイルが求められています。

⑨つながる・交わる・集う

まちについて考え話し合う場や活動や居場所となる拠点多様に広がってきたことで、住民相互の理解や様々な活動の情報の共有、つながりが生まれています。また、コロナ禍ではつながる・集うことの大切さの再認識し、オンラインをうまく活用する人が多くいる一方で、京北地域などとの地域間での距離感を感じたり、個人情報保護、感染予防などの視点から、個人個人がつながりにくいという課題もあります。

検討中

第2章 わたしたちのまちや暮らしの未来を描く

わたしが実現したい未来の描き方

「あなたが実現したい未来を描いてみましょう！」と言われたら、あなたならどうやって考えますか？

未来の描き方の一つには、「今の課題は何だろう？」「乗り越えるには何が必要だろう？」「その先にどんな未来が待っているだろう？」といったように、「今を起点」にする考え方があります。

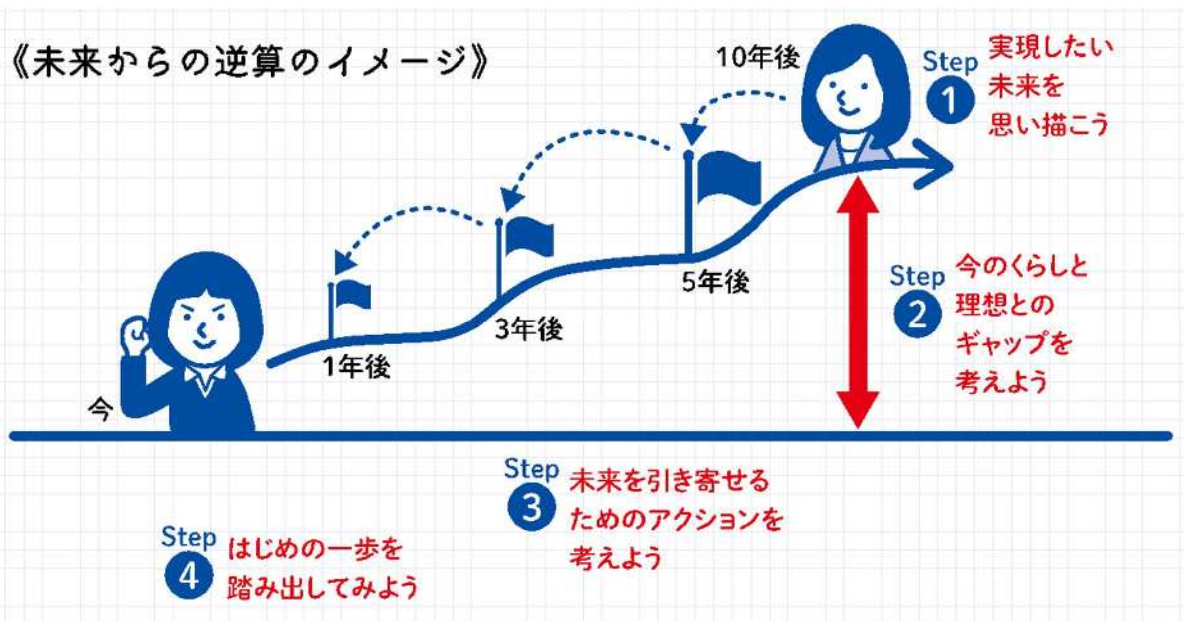
もう一つは、「未来を起点」にした考え方です。つまり、今あるものや無いものに捉われず、「こうありたい！」という理想の未来を思い描き、その未来を引き寄せるために今必要なアクションを考える「未来からの逆算」です。（バックキャストイングといえます）。

未来のことは誰にも分かりません。

そして、それを描くのは「わたし」です。

そうであれば、現実的な課題はいったん横に置いて、自分が本当に「こうありたい！」と想い願うものをイメージしたほうが、明るく楽しい未来が描けます。「無いならつくればいい」「とりあえずやってみよう」という前向きなアクションが生まれてくるかもしれません。

第2章から第3章では、ミライ会議のプロセスとも重ね合わせながら、この「未来からの逆算」の考え方を紹介しています。これを参考にしながら、ぜひ一緒にトライしてみましょう！

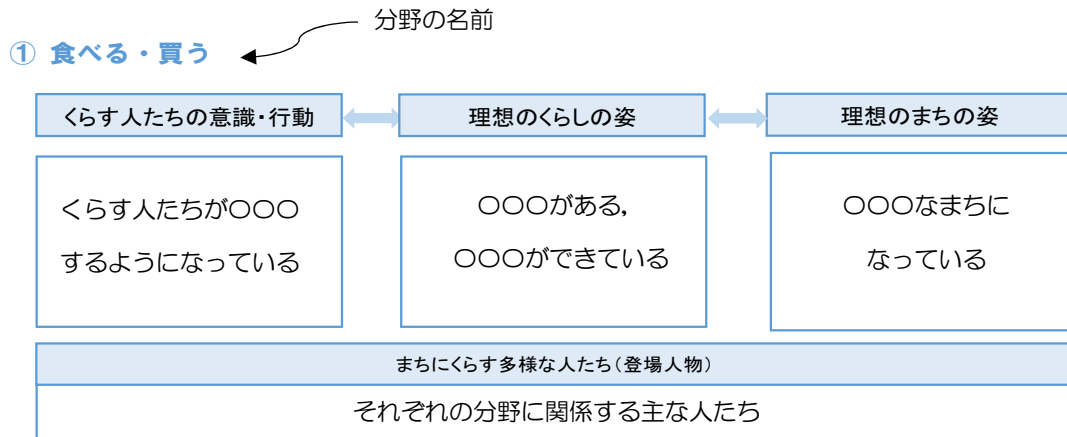


【考えるときのポイント】

「誰もが安心していきいきとくらせるまち」。誰もが「そうだよね」と思える「理想のまちの姿」です。では、果たして、そのまちにはどんな人がいて、くらす人たちがどんな意識や行動をしていて、どんなくらしをしているのでしょうか？実はこのスマートな言葉からはそういう具体的なイメージがあまり伝わってきません。

まずは、未来の様子の具体的なイメージから思い描くことが大切です。「まち」はあくまで「くらしの器」ですから、そこでこんなくらしがしたいという「理想のくらし」のイメージから考えることがポイントです。

表にしてみると、以下のようなイメージです。



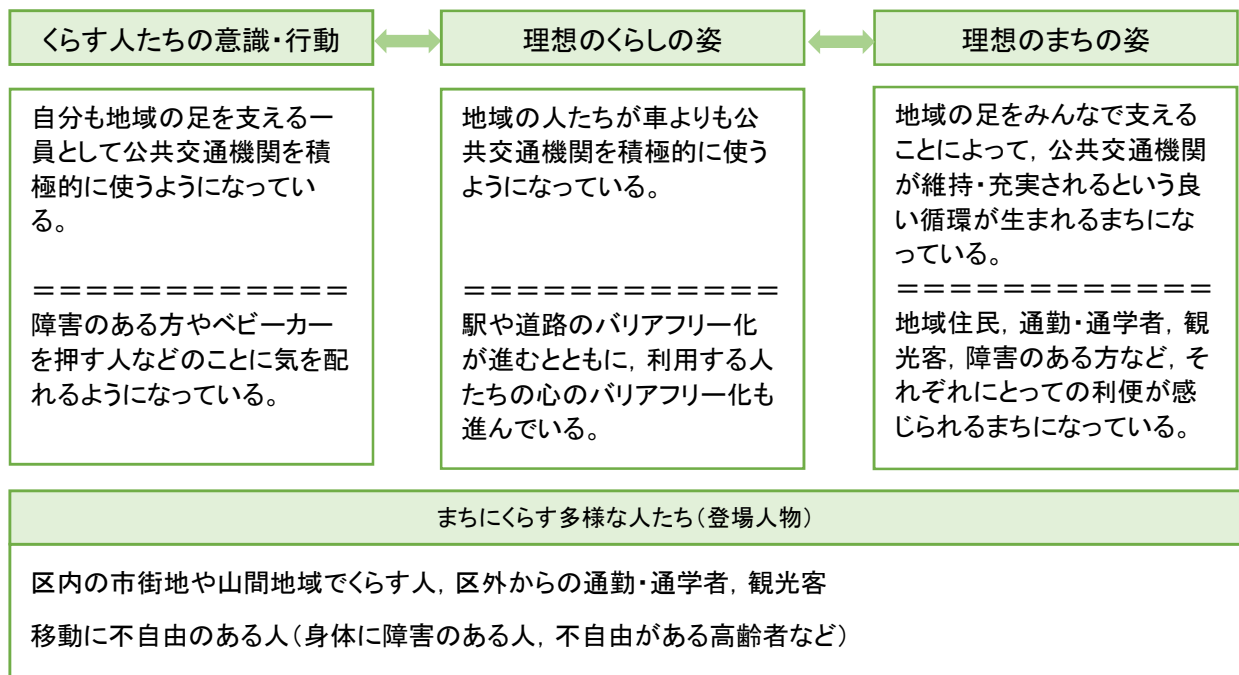
【ミライ会議等でやってきたこと】

ミライ会議でも、整理してみた9つの分野に沿って、「理想のくらしの姿」「理想のまちの姿」「くらす人たちの意識・行動」について、一人ひとりが「わたし」目線で考えながら、「わたしたち」が目指したい未来について、多くの人たちと語り合いました。

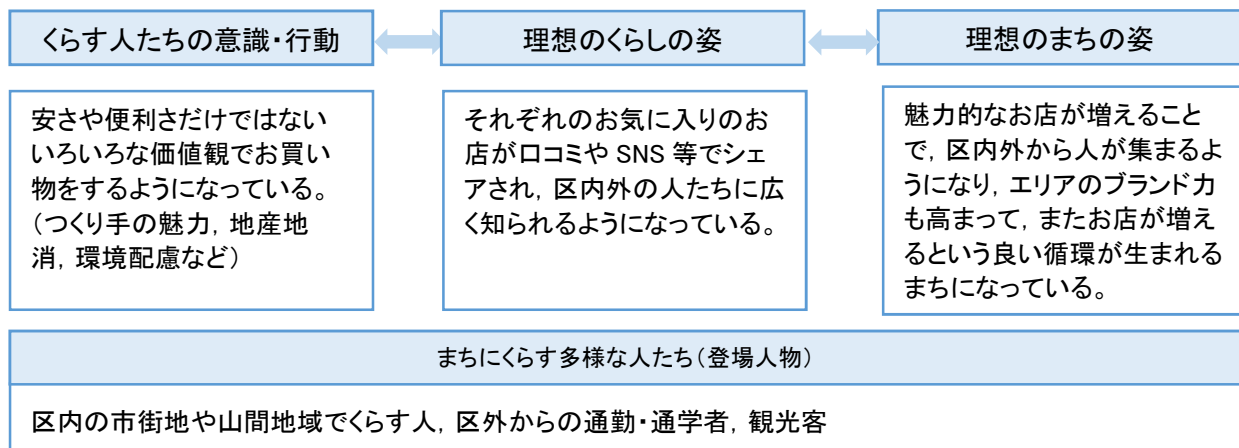
その内容をまとめたのが、次の9つの表です。

あくまでミライ会議に参加された方々が描いた姿ですが、この中に皆さんが共感できるものはあるでしょうか？

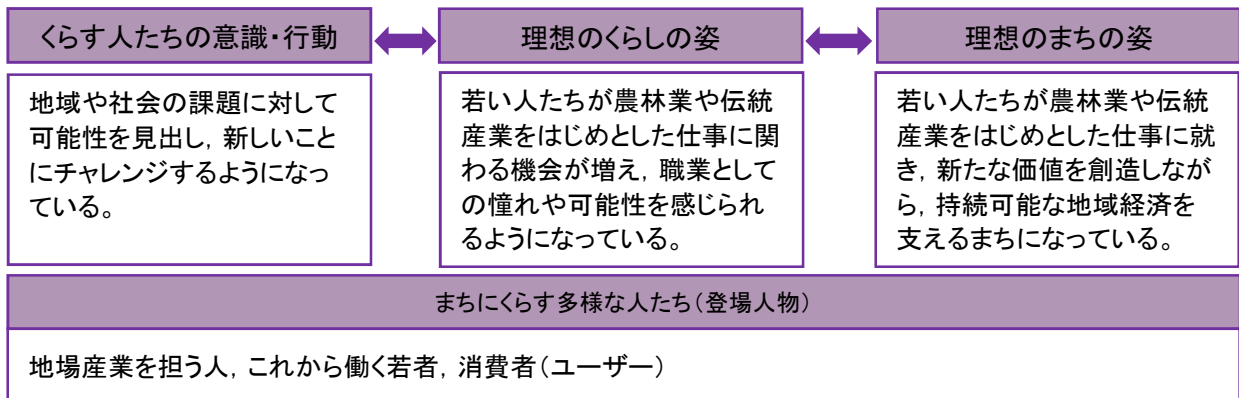
① 移動する（観光）



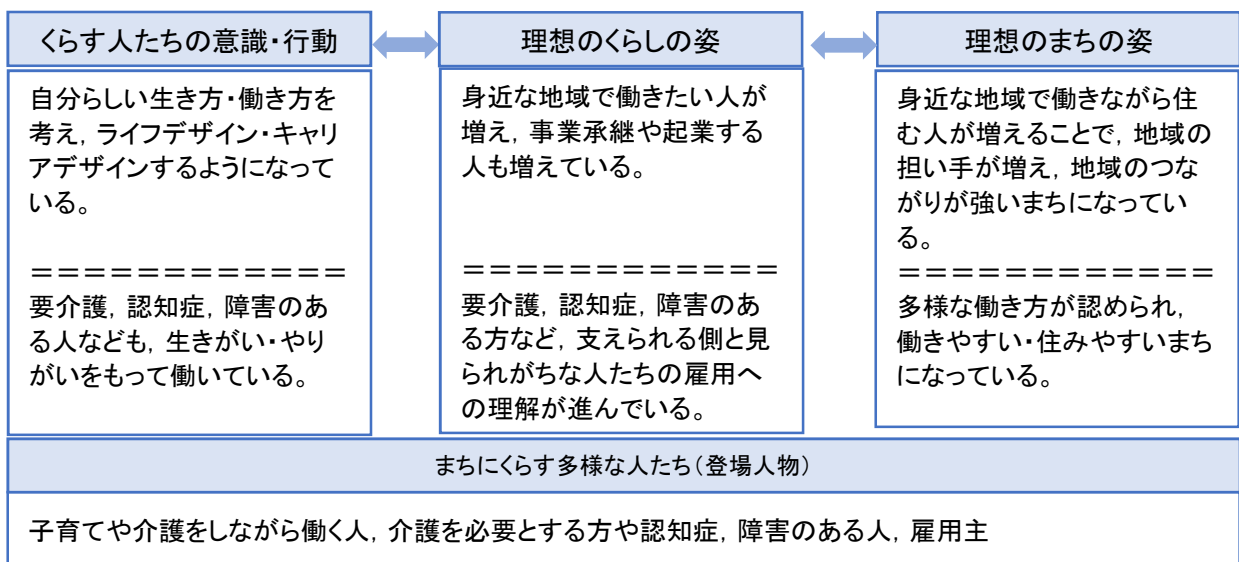
② 食べる・買う



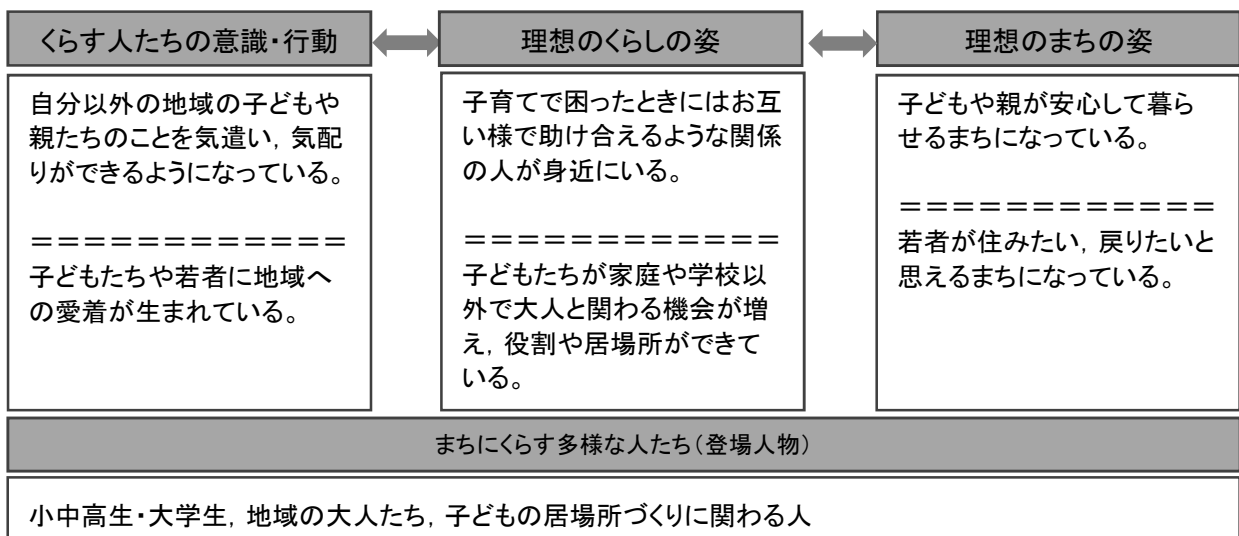
③ 稼ぐ・商う



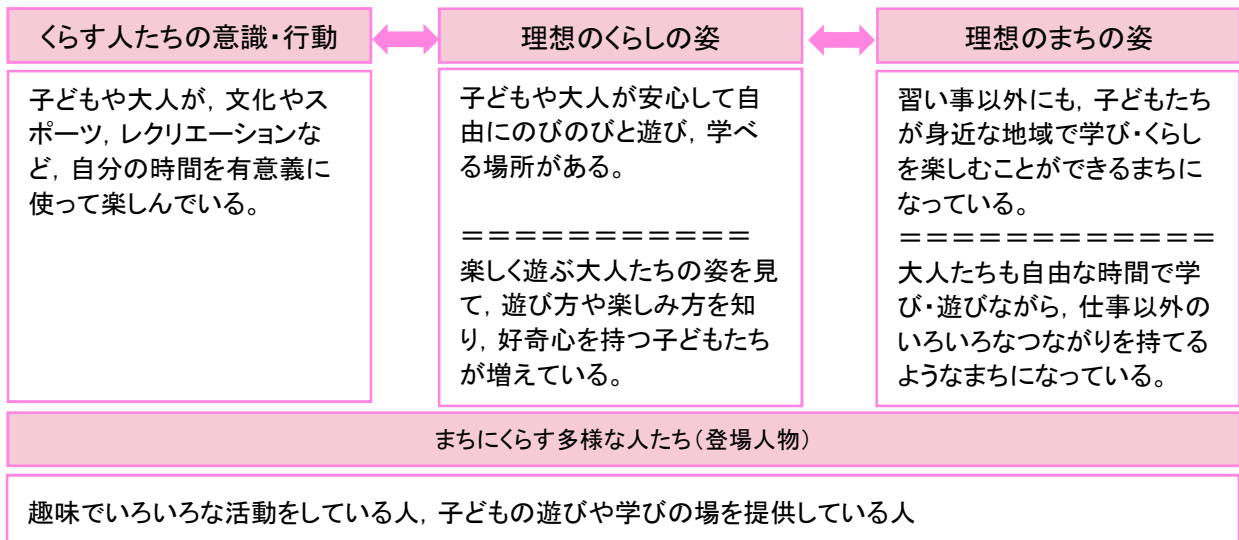
④ はたらく



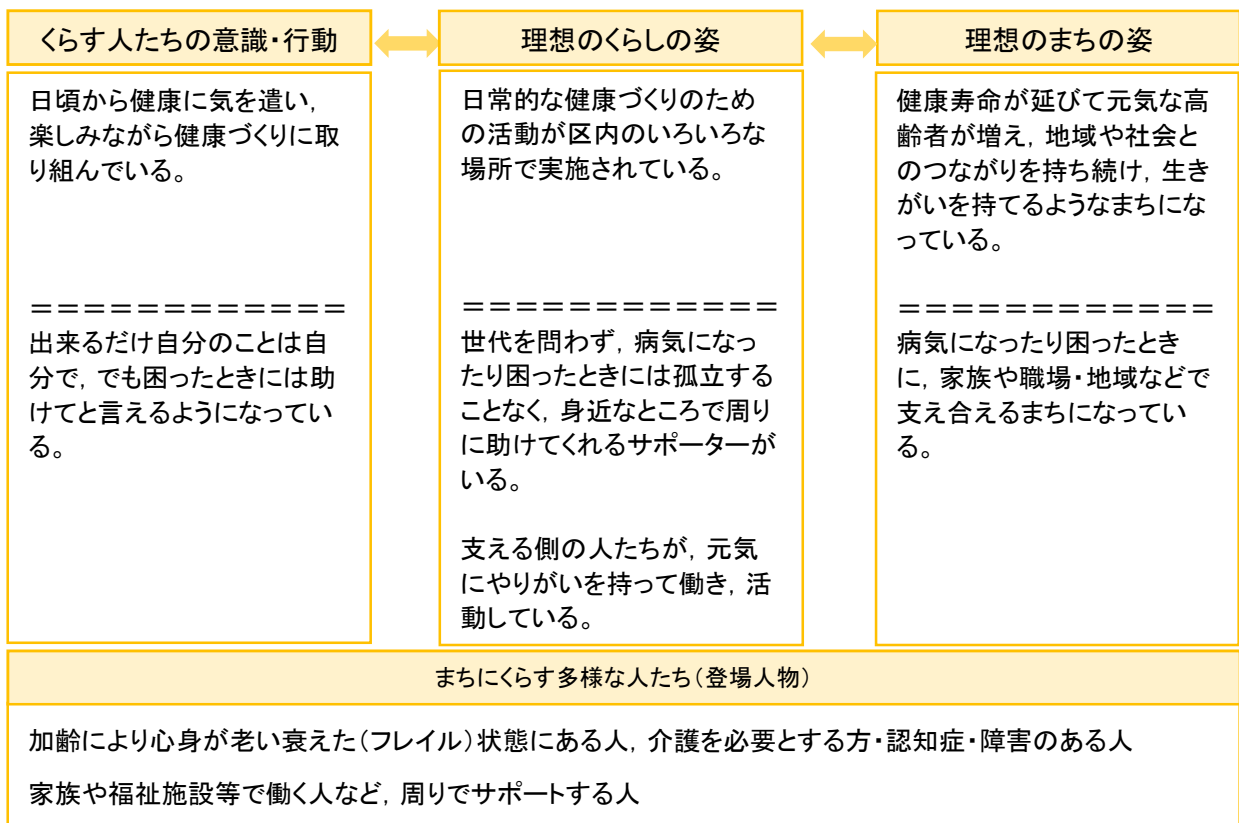
⑤ 育つ・育てる



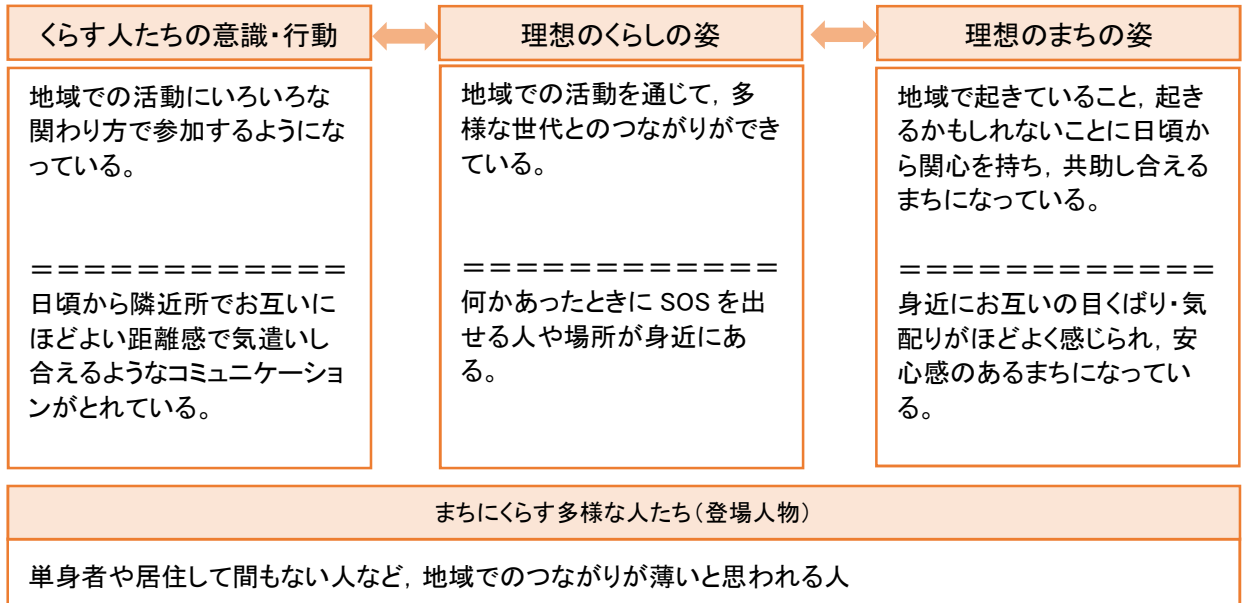
⑥ 学ぶ・遊ぶ・楽しむ



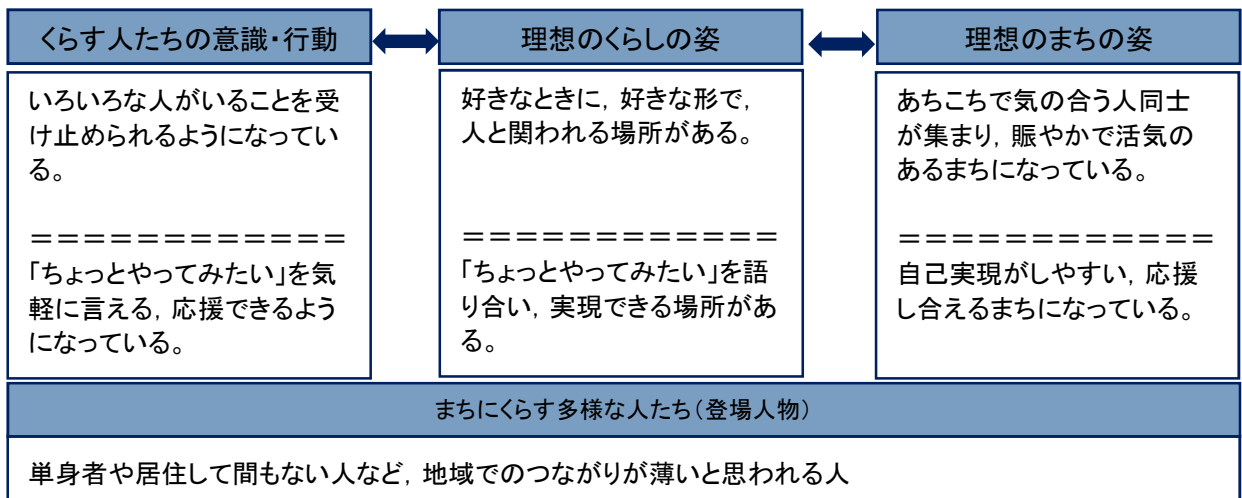
⑦ 健康にくらす



⑧ 身を守る・支え合う



⑨ つながる・交わる・集う



第3章 未来の実現に向けたアクションを起こす

「アクション」を考える方法

目指したい未来が描けたら、次はいよいよ、どのようなアクションを起こしていくかを考えていきます。やりたいことやできることから考えるより、次の Step を踏むと、効果的なアクションが見つかると思います。

(1) 実現したい未来を思い描こう

イメージは漠然としていても構いません。その中でも特にこだわりたいことがあれば、「なぜ自分はそれを実現したいのか」を深く掘り下げていきましょう。

(2) 今の暮らしと理想とのギャップを考えよう

今は実現されていないからこそ、実現したいと感じておられると思います。しかし、できていないのには理由や背景があります。それが何なのかを考えてみましょう。

(3) 未来を引き寄せるためのアクションを考えよう

理想と現実とのギャップを乗り越え、実現したい未来に近付くために、わたしならどんなアクションをしたい・できるかを考えてみましょう。

(4) はじめの一步を踏み出してみよう

いきなり大きなことに挑戦するのではなく、まず、未来を引き寄せるのに少しでも効果がありそうで、すぐにでもできそうなことから、はじめの一步を踏み出してみましょう。そこから次につながるきっかけやヒントが見つかるかも。

【考えるときのポイント】

「アクション」というとなんだか大仰に聞こえますが、未来の実現に少しでも寄与できそうなことを「わたし」なりに、「わたし」の出来る範囲で取り組んでみることです。

「アクション」には、日々の暮らし方やちょっとした行動を変えてみることから、何らかの活動グループをつくって事業を行うことまで、実に幅広い形があります。そして、そのどれにも、未来の実現に向けて大きな価値があります。

ここで紹介したアクションを考えてみる手順は、一人で取り組んでみるだけでなく、他の人と話し合いながら、手順を進んだり戻ったりしながらやってみるのもいいと思います。他の人と話をしているうちに、実現したい未来のイメージがもっと膨らんでくるかもしれませんし、一緒にアクションに取り組む仲間を見つけることにつながるかもしれません。

1

実現したい未来を思い描こう

Step ①

わたしは10年後、どんな暮らしをしたいだろう？



実現したい未来を描こう



書いてみる？

あなたの未来のありたい姿は？

2

今の暮らしと理想とのギャップを考えよう

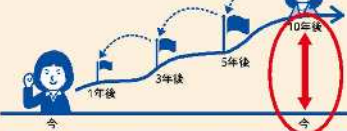
Step ②

「ありたい姿」はなぜ今できていないのかな？

何があれば理想に近づけるかな？

自分の周りの人や未来の実現に
関係ありそうな人たちの話も聞いてみよう！

今の暮らしと理想とのギャップを考えよう！



あなたの理想と今にはどんなギャップがありそう？

3

未来を引き寄せるためのアクションを考えよう

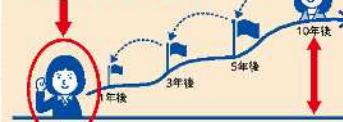
Step ③

わたしならどんなアクションをしたい(できる)かな？

- ・一人でできること
- ・誰かと一緒にやること
- ・日々の暮らしの中でできること
- ・ちょっと勇気を出してやってみよう

いろんな形があるよね。一つに絞らなくてもいいよ

未来を引き寄せるためのアクションを考えよう！



書いてみる？

あなたはどんなアクションをしたい？

4

はじめの一步を踏み出してみよう

Step ④

わたしのアクションにつなげるために



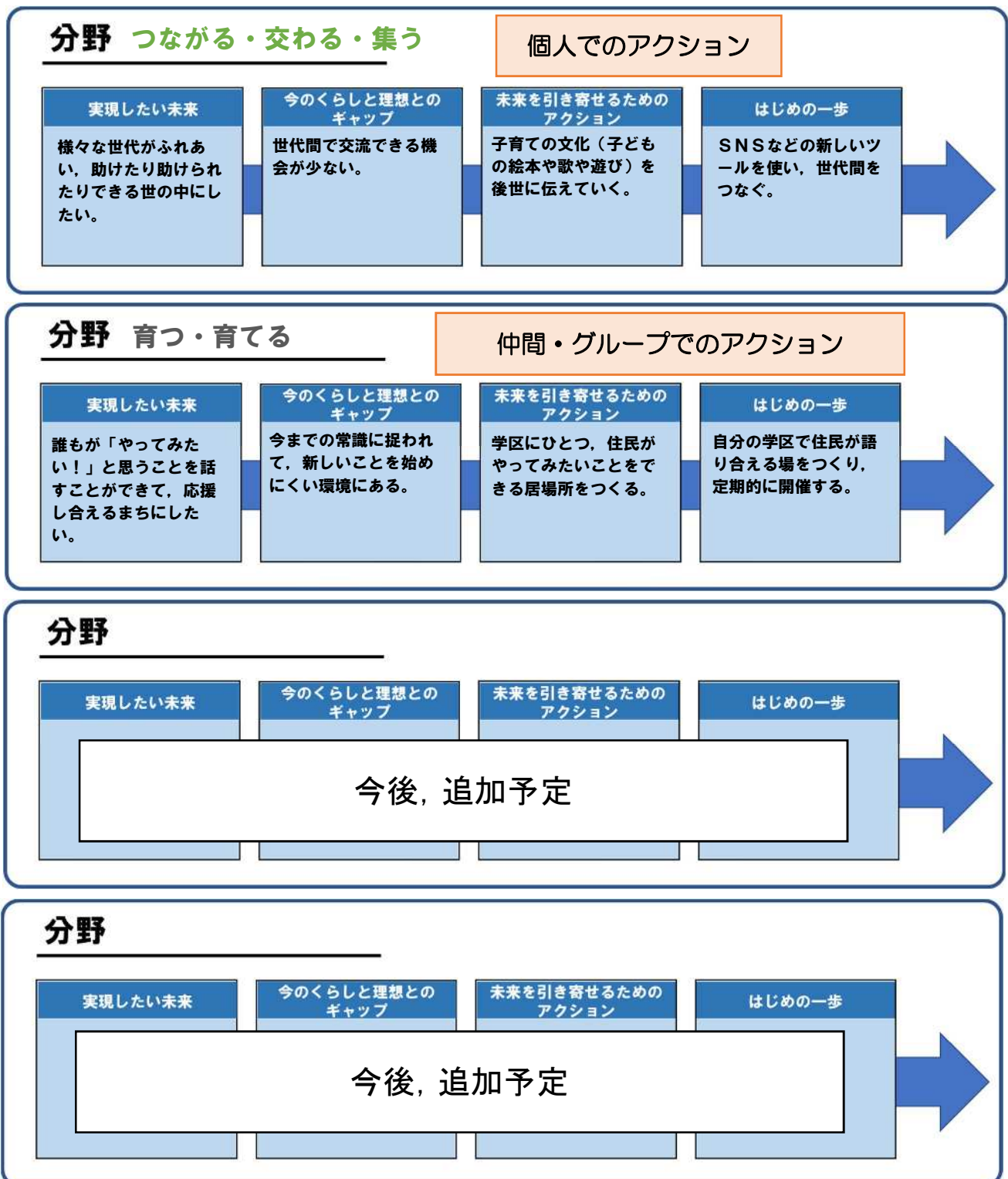
はじめの一步を踏み出してみよう！

書いてみる？

あなたは「はじめの一步」で何をします？

【ミライ会議等でやってきたこと】

ミライ会議でも、36～37ページのワークシートを活用しながら、実現したい未来から逆算してはじめての一步まで、一人ひとりじっくりと考えていきました。ここではその中のいくつかの例を紹介しています。日々の行動を少し変えてみるものから、グループで取り組む企画まで、参加された方それぞれの「わたし」らしさが反映されています。



第1部



第2部



第3部

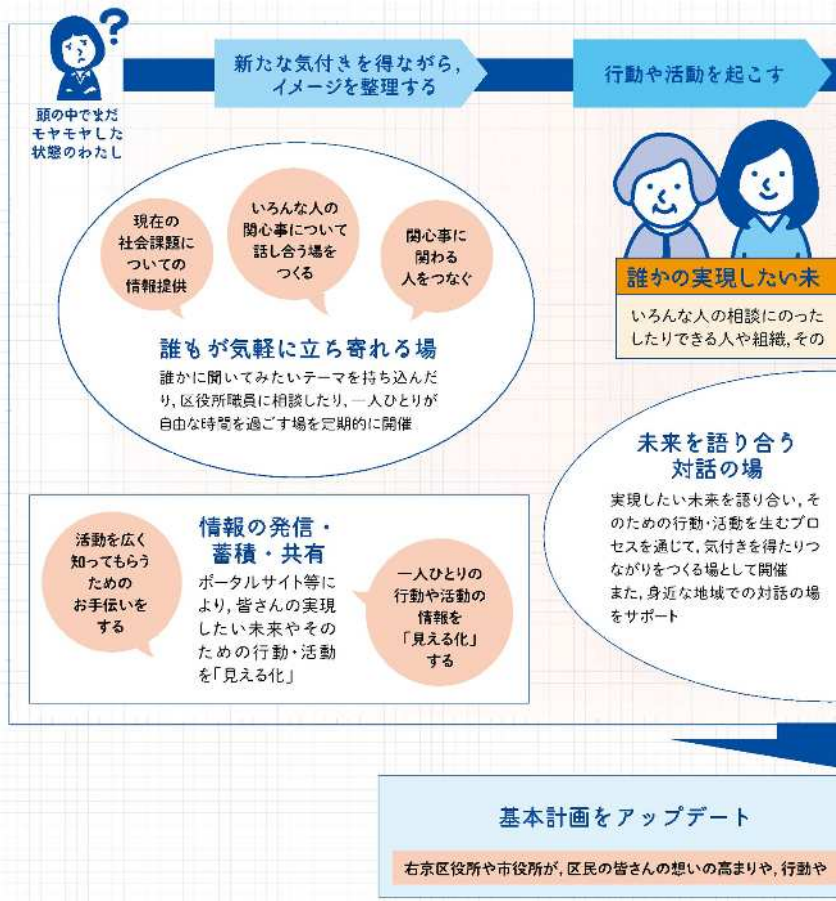


第3部 「わたし」と「わたしたち」をつなぎ・支える、 右京区役所や市役所のアクション

右京区が目指す将来ビジョンの実現のためには、まず一人でも多くの人の意識や行動が少しずつ変わることがスタートとなります。ここまで、その理想的なプロセスを紹介してきました。

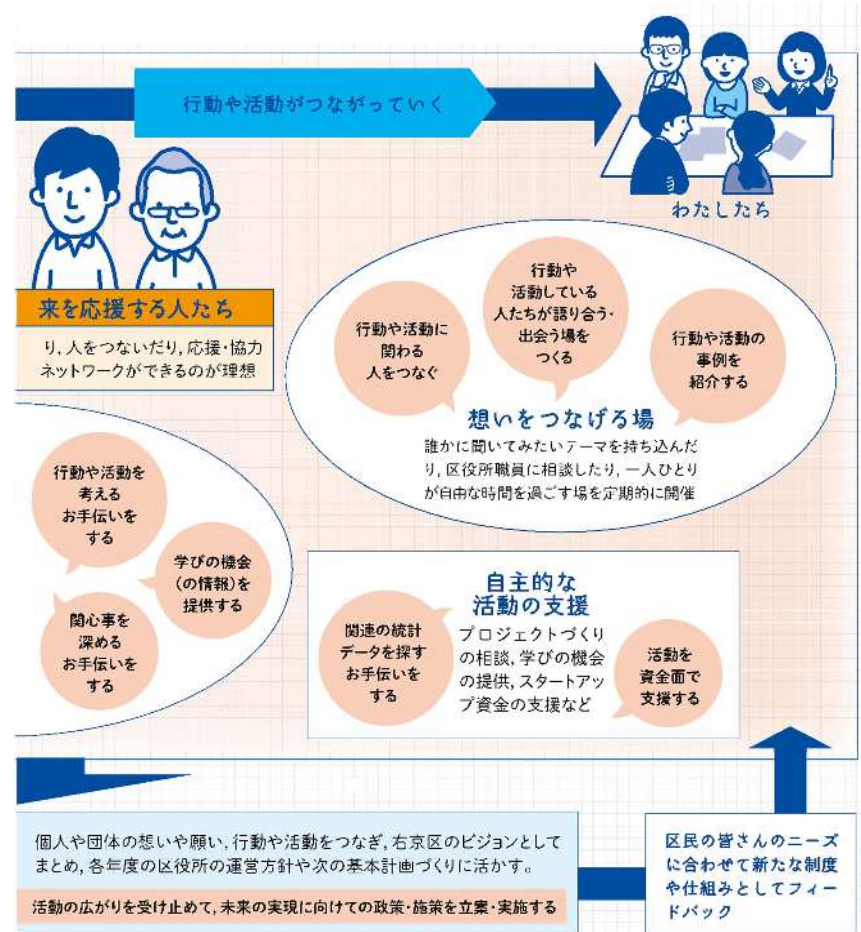
そして、「わたし」の想いや願い、そこから生まれる行動や活動がつながって、「わたし」が「わたしたち」になっていくことで、右京区というまちを良くすることにつながっていくのだと思います。

この『ガイド役』である基本計画を活用し、区民の皆さん一人ひとりの頭の中でモヤモヤしている未来のまちとくらしの姿や、そこに辿り着くための道筋などのイメージを整理するお手伝いをしながら、そこから生まれる行動や活動を後押しし、つないでいくことが、右京区役所や市役所の役割だと考えています。



これらの役割は、職員が日頃の業務で区民の皆さんと接する中で、相談をお聞きすることはもちろんですが、より幅広く使ってもらえるための「制度、仕組み」としても整えていきます。

これらの仕組みを動かし、必要に応じて形を変えたりしながら、また、区民の皆さんの中から、一人ひとりの行動や活動を「支える側の担い手」を見つけていくことも意識しつつ、まちについて考える、まちに関わる人の裾野を広げていきます。



検討中